



似顔絵は楽しい

白鷗大学教育学部 教授

仁平義明 (にへい よしあき)

東北大学名誉教授，日本学術会議連携会員，日本自閉症スペクトラム学会理事。専門は応用認知心理学。著書は『防災の心理学：ほんとうの安心とは何か』（編著，東信堂）。『百人のモナ・リザ：俳句から読む心理学』（単著，ブレーン出版），『嘘の臨床・嘘の現場（現代のエスプリ 481）』（編著，ぎょうせい），『ナラティブから読み解くリジリエンス』（共訳，北大路書房）など。

ゼミナールで学生が作業をしているとき，学生の似顔絵を描きます。専攻の学生は1学年40人，今年の新入生は定員オーバーで70人余り。4年生まで200人を超えますので，学生の顔をなかなか覚えられません。似顔絵は特徴抽出です。

とはいえ私は絵が下手です。似顔絵を描いても，はて？どの学生だったか，ますますわからなくなることがあります。だから必ず学生自身にも描いてもらいます。私が描いた似顔絵は本人に見せません。

自分で描いた私の似顔絵がこれです。あはは，やはり下手だ。



①は，イラストレーター小河原智子さんが描いた私の似顔絵です。小河原さんは，TVチャンピオン初代似顔絵選手権優勝者，全米 Caricature Network 優勝，読売新聞似顔絵大賞などの受賞者で，



読売新聞契約似顔絵作家。②は，小河原さんの門下生，垂矢さんが描いた私。

ところで，自分の変な顔を「こいつは，おもしろい」と心の底から笑える人は，どれくらいいるでしょうか？

「自分自身を笑うのが最高難度のユーモア」だというけれど，ほんとうにそれが可能なのか，自分を笑える人はどんな人か，チューリッヒ大学のウルスラ・ピーアマンたち（2011）が，大学生に本人の顔のデフォルメ画像を見せる実験をしています。デフォルメは，Mac OS X の「フォト・ブース」が使われました。

論文にはデフォルメ顔画像の例があります。わざわざ，実験対象者の顔ではないと注に書かれています。ウェブのピーアマンのページに彼女の写真がありました，自分の顔のようです。ひねりや歪み，部分の拡張などが駆使された変形です。

自分の「変な顔」を見せられたとき，ほんとうのスマイルや笑いが出るのか，他人のデフォルメした顔と比較して表情動作ユニッ



トの分析をしています。しかし，おもしろいのは，変な顔には「おかしさ」と同時に「見たくなさ（嫌悪）」も感じますが，それは他人の変な顔を見たときよりも自分の変な顔を見たときに反応が強くなるという結果でした。

「みたくねえ」という方言が東北地方から茨城県北部まで分布しています。「めぐさい」も同じで，容貌が「醜い」「不細工な」の意味ですが，「めぐさーめんこい」という表現があります。「ヘタウマ」と同じ「矛盾融合語」（私の勝手な造語）です。「めんこーめぐさい」も「ウマヘタ」も成立しませんから，矛盾融合語は，後の部分「めんこい」「うまい」が結論なのでしょう。似顔絵も「みたくなさ」に「おかしさ」が勝る「矛盾融合絵」がおもしろい。ピーアマンたちの「変な顔」への反応も，おかしさ：みたくなさ（嫌悪）＝2.2：1の比率でした。

ところで，ピーアマンは研究をしようとしたときにフォト・ブースを使おうと思いついたのではなく，フォト・ブースで自分の顔を変形して「笑って」いたとき研究を思いついたのではないのでしょうか？彼女たちの論文の題は，「自分自身のことをほんとうに笑えるだろうか？」でした。ふだんからユーモア感覚がある人が，自分自身のことをほんとうに笑えるというのが論文の結論。

このコラムは，筆者の顔写真をつけるのがお定まりです。今回は要りませんね。